

ばならなかった。

このように、中学生徒会活動にあっては、かたわらからの助言や指導が、中学生の自主性や社会性の未発達部分を不即不離の形で補うもので、同時に活動内容自体の正しい伸展をめざすものであることが望ましいように思われる。

Ⅲ. おわりに

以上、本年度前期の中学生徒会活動を中心とする特徴的事項について、その要点をまとめてみた。中には、本校の特殊な事情を反映する問題点も含まれているが、これらの問題点を中心にして、今後の実践の過程でなんらかの解答を見出ししていきたいと考えてい

る。

最近生徒会は年度末に発行予定の「学園誌」の編集委員の中心を、2年生にしようとしたが、実際の仕事を始めるとやはり3年生が中心にならなくては、仕事の進行が思わしくない。クラスマッチの場合の体力差を取り上げて見ても、1年と3年の差は大変なものである。生徒議会の議長が2年に移ると議事はとたんに停滞する。等々、中学における心身の学年による差は大きい。この学年差を克服して、一体となった生徒会活動を推進するにはどう指導したらよいか、また、各学年の発達段階に応じた発展的目標をいかに設定したらよいか。これらは早急に解決しなくてはならない重要かつ本質的な課題である。(酒井)

第10報 中学における朝礼・生徒集会に関する二三の調査

I. はじめに

既に第5報に述べたように、本校は管理上中・高一体となっているが、指導面においては一体が必ずしも能率的というわけにはゆかず、むしろ一体であると、中・高どちらに対しても徹底を欠く場面も少なくない。それで昨年度までは、中高合同で行なってきた月曜日の始業前の20分間の朝礼を、本年からは3週単位に区切り、第1週は中・高合同朝礼、第2週は高朝礼、中集会、第3週は中朝礼、高集会として多角的な運営を始めてみた。

この改正に対しては、高校の方について第1学期末に行なった調査の結果から朝礼・集会とも中高別ないしは改正された現行の方法を支持するものが過半数という結果が出たので、中学の方に対しても挙手によ

り、その大体の傾向を調査してみたところ、数においてはやや高校を上廻る支持が明らかになった。

従って、方法的にはかなりの成果の期待しうるこの方式を、より効率の高い運営をしてゆくための基礎資料として高校に行なったのと同様の調査を、中学生に対しても行なったので、その結果を報告する。

Ⅱ. 調査とその結果

調査の内容は、高校の場合と全く同様であるので、詳しい説明は、第5報にゆずり、ここには簡単に結果と、その考察を中心にまとめることにする。

(1) 朝礼での学校長講話の定着度

〔問〕 校長先生がよく話される「7つのF」をあげなさい。(英語でなくてもよい)

	1 A	1 B	2 A	2 B	3 A	3 B	計	%	高 校 %
fair play	27	2	13	17	43	43	145	52.5	79.8
fine play	27	1	11	19	22	40	120	43.5	60.3
fight	11	2	22	19	38	46	138	50.0	83.4
fiction	0	1	0	1	0	1	3	1.1	33.1
flight	0	0	0	0	2	0	2	0.7	29.5
friendship	41	22	13	24	33	43	176	63.8	76.0
fellowship	1	0	2	0	0	3	6	2.2	44.3
計	107	28	61	80	138	176	590	30.5	58.0

B. 発展的目標をもった生徒の管理・指導

学級人員	45	46	45	46	47	47	276		
1人当りの定着率	2.3	0.6	1.4	1.7	2.9	3.7	2.1		(4.1)
無解答者	1	10	5	15	2	0	33	12.0	4.6

その他の誤答
 frontier spirit (31) free (29)
 family (22) first (13)
 fresh (13) etc.

- i) 高校では半分以上の項目が、全校の半数以上の生徒に定着しているのに対し、中学では半分近い項目が全校の約半数の生徒には定着しているという表現の差をとらなくてはならないことになる。
- ii) 特に定着度のよいものは、高校では **fight, fair play, friendship, fine play** の順であるが、中学では **friendship, fair play, fight** と順が逆転しているのは面白い。然し中高共に何れもスポーツや日常の交友と関係の深いものであることも、講話とか注意の中心となる概念を、余程生徒の日常生活に関係の深い像と結びつくように与えない限り、多数の生徒に定着させることは困難であることがわかる。
- iii) 高校でも定着度が50%以下になっていたような内面的・抽象的な項目は、中学においては1~2%という結果になっており、精神年令の断層のようなものを、つくづく感じさせられる。
- iv) 中学の方の定着度の低さは、精神年令的なもののみが原因ではなく、英語の学力もこの場合には

かなりな比重で影響を与えていることも十分考えられる。この点が学年進行と共に定着率が高くなる傾向が見られる主な原因にもなっていると推察される。

- v) 同一学年でもクラスによって極端な違いが見られるものもあるが、これは調査時期の近くに、たまたまこの7つのFのうちのいくつかは、問題として取り上げられたりしたことが原因と推定される。また中3Bは、その他の誤答も皆無で、半数以上の項目について80%以上の正答を書いているのは、やはり調査時期の近くに同様のケースがみられたか、あるいは調査の場合の状況が特殊であったものとも憶測される。

(2) 特定の講話の定着度

高校と合同の第1学期の終業式に、学校長が特に7つのFのうちの「**friendship**」を強調して訓話された。これを1回だけ話されたことの定着を推測する一つの目安として行なったのが次の調査である。

〔問〕 校長先生が第1学期の終業式のと、特に最近の校内でのいろいろな現象を考えあわせると、いつもあげている7つのFの順序をかえて、特に最初に強調したいのは、といてあげられたのは、どのFでしたか。(英語でなくてもよろしい)

	1 A	1 B	2 A	2 B	3 A	3 B	計	%	高校 %
friendship	6	1	1	2	4	14	28	10.1	12.2
fellow ship	0	0	1	0	0	1	2	0.7	5.8
fair play	3	0	5	4	6	10	28	10.1	18.3
fine play	0	0	1	1	1	1	5	1.8	2.8
fight	0	0	5	1	1	2	9	3.3	3.6
flight	0	0	0	0	0	0	0	0	1.3
fictin	0	0	0	0	0	0	0	0	3.1
無記入	24	43	32	37	35	19	190	68.9	51.1
学級人員	45	46	45	46	47	47	276		393
friendship の解答率 %	13.4	2.2	2.2	4.4	8.5	29.8	10.1		12.2

i) 第一答えそのものが少ないので正答の率も極めて低いが、7項目への分散の比率が、(1)の調査とは大巾に違っているから、でたらめの選択による要素はかなり少ないと考えてよいと思う。その意味で正答率が高校の場合と大差ないこと、また内容的に正答に近い **fellow ship** を加えたものの率もまた高校の場合と大差ないことは、特定の機会に一回だけ話されたような講話の定着度は、中高とも本質的な差はそれほどないと見てよいように思われる。

ii) 学年別で、中3の正答率の高いことは、予想されたことであるが、こちらも中1Aと中3Bが特に正答率が高いことは、H・R活動で取り上げられたことの影響と見てよいようである。

以上(1)、(2)を通して見た場合に感じることは、与えようとするものの繰り返し、それは単に学校長ならば学校長個人による繰り返しもあるが、むしろ指導部教官、ホームルーム担任を中心とする全教職員による繰り返し、重要性を、改めて認識させられる。それと、もう一つは、与える側からの、受けとめる側の動

機づけに対する配慮、と言ってしまうればそれまでであるが、具体的に最も大切な点は、与えようとする概念を、抽象し、ひき入れ、同化することのできる枠の用意が受けとめる側にあるかどうかを、しっかりおさえ、かかることの重要性である。受けとめる側に、与えられた概念を入れるべき枠を持っていない、あるいは持っているもそれを意識するか否か危ぶまれるような場合には与えようとする概念に先立って、その枠を与え、または意識させることが極めて大切なのである。

(3) 学校長講話に対する希望テーマ

そこで、こうした朝礼での学校長講話に対し、中学生達が、どのような内容あるいは話題を望んでいるかを調査したのが次の結果である。参考までに、これも高校生に対する調査結果と対比して表にしてみた。データの整理に当たっては、全般への講話の性格上、1、2名の着想のみでは上述した枠の条件から考えて、不適当と判断されるので、一応5名以下による提案は切りすてた。

〔問〕 朝礼で校長先生に話して頂きたいと希望するテーマを2つ書きなさい。

区 分	事 項	中	高
中 学 特 有	校長先生の生い立ち (中学時代の生活)	45	/
	入学試験について	15	
	校長先生の生活 (家庭・趣味・性格など)	9	
	読書について	9	
	今の生徒と昔の生徒	7	
	本校の歴史や教育方針	7	
中 高 共 通	友情について	32	26
	校長先生の体験談	26	32
	校長先生の中学 (高校) 時代の勉強法	26	10
	学生生活の意義や在るべき姿	19	38
	校長先生の目に映った本校生	16	19
	時事問題	13	26
	人生論 (校長先生だけでなく他の先生のお話も)	11 9	23 11
高 校 特 有	校長先生の高校時代の悩みとその解決	/	28
	交友について		22
	期待される人間像		16
	先生と生徒のつながり		10
	クラブ活動について		10

B. 発展的目標をもった生徒の管理・指導

- i) 中学特有の事項の最高、これは同時に全事項の最高でもあるが、それが「学校長の生い立ち」であるのに対し、同じく高校特有の事項の中でも最高を示している「学校長の高校時代の悩みとその解決」となっている点は、同じような話題であっても、焦点のしぼり方を変える必要性をはっきり示している重要な結果であると思う。
- ii) 中学特有の事項に共通に見られる性格が、具体性であるのに対し、高校特有の事項の共通性としては、抽象性、普遍性そして内面化が見られるのは大きな特色であると思う。この傾向は、中高共通の事項の中においても、具体性の強いものは中学側に、その反対の性格の強い事項は高校側に、比率が傾いていることによって、はっきりと示されている。この結果も i) と同様に焦点のしぼり方として留意すべき点であると思う。
- iii) なお中・高ともに真面目に校長講話への要望も書いている者が、更に「他の先生方のお話も」と要求している点も、校長講話との比率その他で、

なかなかむずかしい条件が少なくないが今後の運営の方針として充分考慮してゆく必要のある問題であると思う。

(4) 月曜生徒集会の在り方

中・高分離朝礼の裏の行事として、平行して持たれる月曜生徒集会は、朝礼形式で、主として生徒会執行部や委員会からの、生徒会諸活動に対する意図の徹底、P・Rなどに利用され、最初は勝手にわからず、多少戸惑い気味であった執行部も、間もなく行事その他で集会が取り止めになった時など、放課後等を利用して臨時の集会を持つことを要求するほどになり一応所期の目的を果たしているものと考えられる。しかし、さらにその活動内容の巾を広げること、質を高める努力によって、一層の効果を期待し得るように思う。

そこで、この生徒集会に、生徒がどのような在り方を期待しているかを調べてまとめたのが、次の表である。この表についても、前表同様、5名以下による提案は切りすてた。

〔問〕 月曜日の朝の生徒集会で、こんなことをやってみたらということを書きなさい。

区 分	事 項	中	高
中 特 学 有	投書についての回答	13	
	討 論 会	8	
中 高 共 通	生徒会活動（協議会・委員会など）の報告	53	55
	みんなで話し合える集会を	33	38
	毎週生活目標をつくり、その反省をする	20	7
	合 唱	13	15
	各H・Rの近況報告を順に クラブ活動の近況報告を順に	10 6	10 11
高 校 特 有	生徒会執行部の方針（適時）		13
	輪番による演説		10
	ラジオ体操		8

- i) 中・高ともに最も多い事項は、生徒会活動の報告であることは、現在行なわれている方法の成果が生徒側から観ても、かなりその価値を認められることを裏付けているものと考えられる。
- ii) また全体でも、中・高共に多い「みんなで話しあえる集会を」というのは、今後の運営方法に、大いに工夫を要する大切な点である。
- iii) 中学の方で3番目に多い、「毎週生活目標を決め、それに対する報告を」という項目は、中学側の集会の今後の在り方の一つの要素として、十分

考慮してゆかなくてはならない面の一つであると思う。

- iv) また中学特有の中で最も多い「投書に対する回答は」現在も行なっていることではあるが、その投書のすべてが真面目な、建設的なものばかりとは言えない。この点は、今後の指導において、方法としては、大いに生かしてゆくと共に、質的に、投書の発想を建設的に方向づける積極的な努力の必要を痛感させられる。

Ⅲ. 今後の計画

今回の調査は、はじめてのことでもあり、内容も決して広いとは言えないし、結果の信頼度も決して高いものではない。それでもなお朝礼・集会の体質改善の

ためのいくつかの重要な点を洗い出すことができたのであるから、今後は更に焦点を生徒集会にしぼり、その健康な発展のための診断に活用してゆきたいと考えている。

(戸荊・佐藤)